

# じじいばあばあのおもしろい遊びの楽しさ

小宮山 繁(京都市立柏野小学校)

## 一、じじいばあばあのおもしろい遊び

私がおもしろい頃から、いえもつと昔からあることは遊びで「なぜ」があります。

一年生の子どもたちを担任していた時のことです。

私は、毎日三つづつ「なぜ」を出すことにしていました。子どもたちはとても楽しみにしてくれていました。問題は、この本屋さんにもある「なぜ」の本から選ぶことにしました。わずかに数百円の本で、毎日子どもが楽しんでくれるのでから安いものです。

ある日、こんな「なぜ」を出しました。

「お母さんにくっついて『ほう』ってなんだ？」

これ、正解は「あかんぼう」とか「あまえんぼう」です。

私のクラスが一番背の低いあきちゃん、元氣よく

「はい！」

と、手を挙げました。

「あきちゃん」

「はい、しぼうです。」

私は、大笑いしました。あきちゃんのお母さんはとてもスマートな方で決して「しぼう」がくっついていような方ではありません。しかし、どこかで脂肪が肥満の原因であることや、お腹まわりの脂肪が話題になることを聞いたことがあるのでしよう。私はあきちゃんの答えをはなまるの大正解にしました。

そして、私が教えた子どもの中に、こんな詩を書いた子がいたなあと思い出して、また楽しくなりました。

お母さんのおなか

三年 かなこ

おふろの中で

お母さんのおなかを見た

お母さんのおなかは だんだん

わたしをうんで一だん

ひろいひろいだんだん

おへそは

だんだん畑のおとしあなみたい

ことば遊びのおもしろさと言っても色々あります。

一人で楽しめる「ことば遊び」もありますし、大勢でやる「ことば遊び」もあります。

大笑いのおもしろさ、くすくす笑いのおもしろさ、やられた

なあと感心するおもしろさ、その笑いの種類も様々です。

昔からあることば遊びもあれば、つい最近テレビで流行りだ

したものもあります。

遊びですから、おもしろくないものは自然淘汰されます。

あまり難しいルールがあるようなものも敬遠されて忘れ去ら

れます。

「遊び」の特性として、知らず知らずのうちになにがしかの

力が身に付きます。ことば遊びの場合、『言語の力(ことばの

力)』と関係がありそうです。

また、集団の中で遊ぶわけですから、人間関係を円滑に進め

るための様々の知恵も身につける必要があります。ルールを守

って遊ばなければ楽しくありません。上手な子ども下手な子どもあ

りますから、その力に応じて楽しくするための空気読む必要もありそうです。

私たちは、ふだんのくらしの中で様々な「ことば遊び」を楽しんでいます。『ことば遊び』は、ことばに対する感覚やセンスを磨き、ことばの可能性について考えるきっかけを与える契機になりそうだと考えています。

私がやっている教室で楽しめる『ことば遊び』をいくつか紹介しながら、ことば遊びの可能性について考えたいと思います。

## 二、ことば遊びアラカルト

1、あいうえおの文作り

教室の黒板に「あ・い・う・え・お」と横書きします。

そして、それぞれその文字で始まることばを考えます。

「あ」のつくことばは何があるかな? : そうだ「あり」だ。

「い」のつくことばは? : 「いし」にしよう。

「う」のつくことばはどうか? : 「うれしい」がいいな。

「え」のつくことばは? : そうだ、「えんそく」だ。

「お」のつくことばは? : 「おおごえ」にしよう。

これをつないで文作りをします。たとえば、

あきさんが

いしの上で

うれしそうに

「えんそくだ!」と

おおごえだした

というように作るのです。

友だちの楽しい作品をしようかいしましょう。

あしたは はれかな

いいことあるかな

うれしいことあるかな

ええことあるかな

おもしろいことあるかな

あめがふりそうだったので

いそいで家にかえったら

うん動場

えんびつに入ったふでばこを

おいてきました

私は、この「あいうえおの文作り」は、物語作りだと思っています。実話でなくてよいのです。制限された文字から始まることばによって刺激を受け、自分の中である事や物を想像し、あるいは思い出して、自分の世界を創り上げるのです。テーマが一貫している方が高度ですし、おもしろいのです。

このあいうえお絵本はたくさん出ています。多くの絵本作家と言われる方が挑戦しておられます。しかし子どもたちの作品がそれらに遜色ないものになることを私は見てきました。

次の作品はどうでしょうか。

あんだ

いつも

うるさいな

えーやん

おこつてばかりうるさいわ

これは、どうもだれかに対して言っているようです。作者の思い、本音が、「あいうえお作文」という制約の中で表現されたのです。私は、こういう制約がかえって子どもの中の思いを引き出すことがあることを指摘しておきたいと思えます。実は「自由に書け」ということぐらゐ不自由なこともない…ということも一面の真理なのです。「子どもによつては」という制限をつけた方がよいかも知れません。教師の誘いかけのことばが、子どもの書きたいことを引き出したたり、書く勇気を与えたりすることは、多々あることです。

俳句が「季語」「五七五」「折句」という手法などという制約をもっているのは、実は制約することがかえって表現を自由にすると逆説でもあるのではないかと考えます。次の作品は、四年生の子どものものです。私はどきどきとしました。

やきもち  
ゆがんで  
よいことないかも

私たちは、子どもをバカにしてはいけません。子どもの精神生活は私たちが考えているより進んでいるのです。

## 2、アクロスステイック

次に「アクロスステイック」という遊びです。先ほどの「あいうえお作文」や、川柳や俳句の「折句」と言われるのもこの仲間です。

人名やものの名前などを各句の一番上に置いて、それを意味あるものにつないでいくのです。よく自己紹介をこれでおられるのを見かけます。学級開きで自分の名前を使って紹介し合うのも楽しいです。たとえば、

花田さんは、次のようです。  
はなが好き  
なかよしなのはみさきちゃん  
だからいつもあそんでる

昆虫大好きぬはるのぶ君はこんな自己紹介です。  
はれた日に  
るんるん

の原で  
ぶんぶんをとる

私は、学校紹介をする時に使っています。私の学校の名前は「柏野(かしわの)小学校」です。野外学習で学校紹介をしなればならなかったのです。全員でコールするのに、この遊びを取り入れました。もちろんそのセリフはみんな考えているのです。

こんな学校紹介です。  
か…かめが10びき  
し…しまりまが3とう  
わ…わにが1びき  
の…のうさが20びき…いません。  
か…かしこい子ばかり  
し…しわせな気分  
わ…わるい子はいません  
の…のりのりの毎日です

などと作りました。さて、一つ目と二つ目、何が本場で何が嘘なのか…ウウンどつちもあやしげだと聞いている子は思ったでしょう。

また「アクロスステイック」は、「一年生を迎える会」「六年生を送る会」などのメッセージを言う時や、学級目標を作る時にも使えそうです。

## 3、回文づくり

上から読んでも下から読んでも同じ、むかしから有名なには「しんぶんし」「たけやぶやけた」などがあります。

かんたんに作る方法は、二文字の言葉で、上から読んでも下から読んでも意味のある言葉を見つけて、その間に「くつき(助詞)」を入れて作る方法です。

「〇△は△〇」「〇△を△〇」「〇△の△〇」「〇△が△〇」「〇△に△〇」などと作ってみましょう。  
二文字のことばで、案外たくさんあります。  
「かほ」「わし」「かい」「しか」などですね。これらにおもしろくお話を作るつもりで「くつき(助詞)」を入れてみましょう。

- それでは、いくつか紹介しますから、参考にしてください。
- ・タイがいた(たいがいた)
- ・北の滝(きたのたき)
- ・セミの店(せみのみせ)
- ・今朝は酒(けさはさけ)
- ・口がチク(くちがちく)
- ・元は友(もととも)
- ・ワニの庭(わにのにわ)
- ・タカの肩(たかのかた)
- ・がけでケガ(がけでけが)
- ・ろうやのやろう
- ・イルカは軽い(いるかはかるい)
- ・ぶつぶつのつぶつぶ
- ・つい会いたいあいつ(ついあいたあいつ)
- ・短気な金太(たんきなきんた)
- ・タックが食った(たつくがくった)

## 4、にたものことば遊び

「ぶた」と「ふた」はだく点がつくだけでにています。「ぶたにふた」したらかわいそう！でもおもしろそう。

「こむすび」と「おむすび」は一字ちがいです。「こむすびのおむすび」ってどんな味かな？大きそうですね。

にたものことばをつないで、お話作りをしてみましようというのがこの遊びです。ツンツミを入れながら読むとおもしろいです。

- ①ライオンの体温(熱でもあるの?)
- ②パンダのパンツ(何色?やっぱ白と黒のもよう?)
- ③しょうじきなそうじき(正直なそうじ機…どこにある?そんなそうじ機)
- ④ほうちようするほうちよう(膨張する包丁…こわい!)
- ⑤ほうじにそうじ(法事にそうじ…いそがしいのに)
- ⑥うちゅうにむちゅう(宇宙に夢中…そんな人もいる)
- ⑦かけでまけて、がけに落ちるかけ(かけことは身をほろぼすよ)
- ⑧キックはきくときくち君(気の毒なきくち君)
- ⑨びんぼうなマンボウがしんぼう(ガンバレ!)

## 5、洒落ことば遊び

洒落と言えば、語呂合わせなどで、人を笑わせる気の利いた言葉の意味です。センスの良いおもしろいことば遊びというニュアンスを持つことば遊びです。

それに駄がつくと(ダジャレ)、「つまらない、しょうもない、平凡な」などの価値が付加され、「おやじ」が付くことによつて(オヤジギャグ)、「しょうもない事言うな!中年オヤジ!」という誹謗中傷の悪意をもったことば遊びになったようになり

ます。しかしながら、洒落ことば、語呂合わせは、落語など古典芸能や古典と言われている文学作品の中にもいくらでも使われているものです。

子どもたちは喜んでたくさん作ります。子どもたちと「しやれことばあそび」をしてみました。

・プリンはいよいよたっプリン  
・オルガンをおる、カーン  
・牛を買う

・イカつつたらイカんとイカのいかり

・エイはエイよ

・マスをつりマス

・ブリくつたらうんこブリブリ

・もちをもち焼る

・おにのおにぎり

・白にしる

・父さんはここから通さん

・ようかいに用かい

・わしはわしだ

・ヘビー級のへび

・カンガルーがかんがえるー。

・ソウの銅像

・トラをとらえる

・げたがにげた

ことば遊びが持っている楽しさ・風刺性・感性の磨き・イメージの転換、拡大、意外性の妙など、これらがもつと生かされる場があってもいいのではないかと思っております。

### 三、ことば遊びでつく力

ことば遊びを子どもたちが楽しむとどんな力がつくのでしょうか。私は、遊んでいるうちに、今から述べるような力が身に付ければいいなと思っております。

①言語能力を高める

まず、言語能力を高めることに貢献するのではないかと思います。

言語教育の基礎的な要素として、

①表記(文字・表記法)学習

②語い学習

③文法(品詞・構文)

が考えられます。ことば遊びはこれらのことに貢献すると思えます。とかく堅くなりがちな日本語の学習を楽しく進めることができる可能性を秘めた学習だと言えます。いくつかの例を挙げてみます。

しりとりに、魚島木などは語い指導、しゃれことば遊びでは、文字指導に関連する事項を意識させますし、同音異義語や同訓異義語などのことを学びます。「ことばのかいだん遊び」では、ことばと音数の関係を意識せざるを得ません。

なぞなぞやクロスワードパズルでは、言葉の意味(概念)を知らなければ作れません。早口ことばは発音を鍛えます。絵かき歌はことばのもつリズム感を育てます。

「だれが・どこで・何をした」や「伝言ゲーム」は構文を意識させます。「連想しりとりに」は形容詞が大切な役目を果たします。

②言語活動を活発に

ことばの力を高めることは「話す・聞く・読む・書く」という言語活動を通じて行われます。この活動は外言としての活動になるのですが、実は内言として頭の中の言語活動が行われ

ています。「ことばの力」を高めることは内言・外言双方を鍛えることで成立する活動なのです。言語という記号を通して人間は知識を自分の中に取り入れ、ものを考えます。そして話したり読んだりしてそれを人に伝達します。

ことばを通して、リズムを意識したり、歌ったり、描いたり、読んだり、書いたり、質問したり、答えたり、時には体を動かしたりのことば遊びの活動が「話す・聞く・読む・書く」などの言語活動を活発にすることは間違いありません。

ことば遊びは子どもたちを賢くする活動なのです。

③ことばに対するセンスをみがく

日本語のもっているおもしろさ、修辞法など、ことば遊びは日本語の魅力を開示してくれます。ここで培われた力が、魅力的な日本語の担い手を育てることも確かだと考えます。

また、ことば遊びはユーモアのセンスも鍛えてくれます。私にはことば遊びは笑いのセンスを育てると思っております。笑いは人間を楽天的にし、人間関係を円滑に進める原動力になると思っています。

④伝え合いの分り合う力が

ことば遊びの中には集団で行うものが多数あります。話し合う、そして分り合うということが今ほど強調される時代はかのように思います。ことば遊びは、ことばのやりとりが楽しいという実感や安心感連帯感を高めることにつながると思います。

④ことば遊びは物語づくり

物語を作れと言われても、かんたんに作れるものではありません。今教科書では、名作の続き話を作らせたり、地図を見ながら冒険物語を作らせるようなお話作りが進められています。物語を作るにはおもしろい筋立ての構想を立てる必要があります。これはなかなか難しいことです。

ことば遊びの物語づくりは、思いがけないことばの結びつきでうまれる物語です。そのおもしろさがことば遊び物語づくりの醍醐味の一つであると私は考えています。なれてくれば、意識的に作るうと努力できるよいにもなれそうです。

「しゃれことば遊び」「サンタクロースカルタ作り」「あいいうえおの文づくり」などで作られた作品はそれだけで短い物語だと言えます。

こういう楽しさを比較的簡単に手に入れられるところにことば遊び物語づくりの魅力がありそうです。

## 4年い組ことば遊び発表会脚本

2008年2月9日(月) 朝会

### はじめに

1 これから、4年生の発表をします。

2 ぼくたちは、国語で学習した「ことば遊び」

3 について発表します。

4 おもしろかったら、わらってください。

5 上手だなと思ったら、拍手をお願いします。

### 1、回文

6 では、はじめます。

7 最初は回文をしようかいます。

8 回文というのは、上から読んでも下から読んでも同じことばや文になるものです。

9 例えば、「しんぶんし」とか「わたしまけましたわ」などが有名です。

ぼくたちが作ったオリジナルの回文です。

(画用紙に書いたものをもって発表する)

大磯  
田中  
津田  
堀  
池山

なわでわな  
すいとろといす  
トーマスはスマート  
うまがまう 用紙を使用  
オレはれお

## 2, しやれ言葉遊び:清音とだく音

2つ目は清音とだく音を使ったしやれことば遊びです。

清音というのは、にこらない音です。

だく音というのは、点々をつけて、にこる音

清音とだく音を組み合わせさせて楽しい文を作り

ます。ぼくたちの作品です。聞いてください。

1 1  
1 2  
1 3  
1 4

前田  
笹井  
白石  
金田  
西澤

ダンスがダンス  
勝負に負ける人へそ贈る  
危機をのがれた木々  
正氣じゃない定期  
ホールにボールがまよいこむ

## 3, すむとにこるで大違い遊び

3つ目は、さつきと同じ清音とだく音を使っ

1 6

1 7  
1 8  
1 9

て遊ぶことは遊びです。  
「世の中は、すむとにこるで大ちがい」と言  
つたあと、  
どうちがうのかをおもしろくしようかいます。  
さつきの「しやれ言葉遊び」よりちよつとむ  
ずかしいです。  
では、はじめます。

みんな  
森田  
みんな  
内田  
みんな  
川本  
みんな  
坂根  
みんな  
森澤  
みんな  
渡邊

「世の中はすむとにこるでおおちがい」  
「カラスは動物 ガラスは割れ物」  
「世の中はすむとにこるでおおちがい」  
「へアはかみの毛 スヘアはくま」  
「世の中はすむとにこるでおおちがい」  
「けいと糸糸で ゲートは門」  
「世の中はすむとにこるでおおちがい」  
「ギターはがっき」  
「きたー!」  
「はネタ」  
「世の中はすむとにこるでおおちがい」  
「バラにはとげあり、はらには肉あり」  
「世の中はすむとにこるでおおちがい」  
「こみやまは4年生の先生」  
「こみやまはこみやま

## 4, なぞなぞ

2 0  
2 1  
2 0

中村

最後のことは遊びは「なぞなぞ」です。  
これからなぞなぞを言いますから、わかった  
人は手を挙げてください。  
あてられたら、こたえてください。

第1問 太陽にかくれている魚は何?

久山  
澤井  
馬場

吉田

第2問 エイが五回話すことばは何語?  
第3問 すずはすすでも音がならないすずは?  
第4問 お正月に追いかけたり、追いかけれ  
たりするあそびはなーん  
だ?  
第5問

## 終わりに

これで、4年生のことは遊びの発表を終わります。  
礼!

## 三、豊かな子どもの表現って何だろう

私は、生活に根ざした子どもたちの表現が大切だと思い、自  
分の思いや願いが率直に表現されることこそが尊いことだと信  
じて作文教育生活綴方の仕事をしてきました。

また、真の子どもの賢さを引き出すには、これしかないとも  
思ってきました。真摯に自分のことばと向き合うことは、人間  
の謙虚さを培うことにつながります。人間の言動に関心をもち、  
その時々他人の気持ち想像したり、自分の気持ちを振り返り返  
ることは、必ず人間としての深さと幅を育てることにつなが  
るのだと思ってきました。

また、そのことは楽しいことでもありません。教師と子ども  
の間に流れる一体感は、本当のところを一生懸命の表現で応え  
てくれる子どもとの間で成立することを私は喜びとしてしまし  
た。

私が考える「豊かな子どもの表現」について、いくつかの子  
どもたちの作文から考えてみたいと思います。

## ①くらしのほずみが豊かな表現を生む

電話☆電話☆電話

四年

わたしは、毎年奄美大島に行きます。

ひこうきにのって、一時間半くらいでつきます。

今年もいくので、すこくたのしみになっています。

そして、一回おばあちゃんから電話がありました。

「プルルル、プルルル。」

と電話がなったら、お母さんが、

「さち!今手がはなせんへんから、電話出て!」

といわはったので出ました。おばあちゃんからでした。

「はい、もしもし加賀山です。」

と言ったら、

「さち?ばあばやで!」

といわはったので、

「うん、さちやで。ばあば、ひさしぶりやなあ。」

と言いました。そうするとばあばが、

「さち!もうすぐやなく、たのしみ。」

と言わはって、

「なにが?」

と言ったら、

「なにがって!もうすぐ奄美くるやろ!」

と言わはりました。

「そうやけど、そんなにたのしみ?うちもたのしみやけど。」

と言ったら、

「むっちゃたのしみやでエ。」

と言わはりました。

「フーン。」

と言いました。そしたら、「奄美きたら、いっぱいおようふくかってあげるしな！」って言わはったら、うれしくなって

「うん！ありがとう。」  
と言いました。そして、ねました。

次の日、あさおきてごほん中に「プルルル、プルルル。」

と電話がなつたので、私が出ました。

「もしもし加賀山です。」  
と言ったら、

「さち？ばあばやで。」  
といったので、

「なんかよう？」  
といったら、

「はは(母)にかわって。」  
って言わはってかわって、そしたら母が、

「ばあばが、さちにかわってやって。」  
と言つたので出ました。

「もしもし。」  
と言ったら、

「さちー、ほんまにたのしみやわー。」  
といわはって、

「うん、そうやけど、うち学校やしー。」  
と言いました。そしたら、

「じゃあ、よるまたかけるわー。」  
と言わはって、

「もうかけんでもいい！」  
と言おうとしたら、プツときれました。

学校からかえって、じゅくにいつてかえつたらちようど「プルルル、プルルル。」

と電話がなつて出ました。そしたら、おばあちゃんて(うちってタイミングわるいなー)

と思ひました。そして、  
「さちー、あのなー、奄美の夏まつりのことなんやけどー、ちがうとこでやるらしいでえー。」

と言わはりました。  
「フーン。でも夏まつりって五回ぐらいあるやん。どれ？」

ときいたら、

「わからん。」  
と言わはりました。

(なんやそりや。)

と思ひました。それでいろいろしゃべって、プツときりました。そしておふろに入つておきました。

次の日学校に行つてかえつてきたら、だれもいなくて、友だちとあそびました。

それで帰ってじゅくのようなをししたら「プルルル、プルルル。」

と電話がなりました。

「もしもし加賀山です。」  
と言つたら、

「もしもしばあばやで。」  
と言わはって、

(もう、なによ。)

と思ひました。  
「なに？ばあば、まさかまたたのしみーとかいうんちやうやるなー。」  
と言えは、

「ピンポン、正かい！ほんまたのしみー。」  
と言わはりました。

「もーわかつたから。まあ、うちもたのしみやけど。」  
と言つたら、

「ほら、さちもたのしみなんやろ。」  
と言わはりました。

(もー。)

と思ひました。

でも、ほんまにたのしみです。  
こんなうるさいばあばでも、すごくやさしいんだな！、こんなばあばでよかつたな！と思ひました。すごくたのしみです。

ばあばの気もち、わかるな！  
見たい！

一八八年

ぼくは、今楽しみにしているTV番組があります。それは、日曜五時〜五時半のアニメ「鋼のれんきん術師」です。昨日、十日もありました。

ぼくは、その日めっちゃ楽しみにしてました。録画はしてあるのですが、一秒でも早く見たいのです。それに三十分からは笑点がはじまります。それも見たいのです。つまり、録画したのを見ようとすれば、六時からしか見れないのです。でも六時からはニュースを見たい。つまり、五時からの見のがせば、月曜にしか見れないのです。なので、五時までのタイムーをかせておきました。

しかし！あど五時まで二十分！というときに、おじいちゃん二階からドストドスおりてきたと思つたら、四チャンネルにしておいたTVを相もうにしてしまいました。ぼくと同じく楽しみにしているお姉ちゃん(ななちゃん)と「まじいぞ。このまじや見れへん。」とひそひそ声で話しました。

すると、五時五分前ぐらいに、おじいちゃんは、また二階へ上がつていききました。なんと良いタイミング！いそいで四にもどしました。安心していると五十八分ぐらいになって、またおじいちゃんが二かいから下りてきはりました。こんどこそまじいぞと覚ごしてると、おじいちゃんは、お風呂に入らはりました。また、ななちゃんとおじいちゃんも見る。グフフフ。」「

と話している、すぐ始まりました。やはり期待どおり、おも白です。でもそれと同時に、また十七日が楽しみでしょうがなくなりました。  
そして、「鋼のれんきん術師」が始まって十五分ごろ、なんとおじいちゃんがお風呂から上がつてきはりました。  
「今一番エエとこやのに。」  
「タイミングわる！」

などと言っていると、おじいちゃんは、すぐ二かいへ行ききました。ほつとしましたが、またすぐ下りてきはるので、ピクピクもしてました。しかし、おじいちゃんはそれから六時ごろまで二かいから下りてきはりませんでした。  
「鋼のれんきん術師」も「笑点」もちやんと見れたしよかつたけれど、自分の自己中さがうきほりになった出来事でした。

### ミラクル大町

一八八年

きょう、ぼくと志有くん大西とあやかとみさきと大町と、ほかかゴバレーをして遊んでました。

女の子は大町以外の人は、バレー部でした。やはりみんなす

ごく強く、ぼくと志有人くんは、いつのまにかボールひろいをしていました。これではだめだと思い、志有人くんとぼくと、「本気でいくぞ!」

と気合いをいれたものの、結果はついてきません。ぼくは、「ハンデちょうだい。」

「はいました。そしたら大西が

「へばいしいよ。」

といいました。ちよつとむかつとききました。

そのハンデイとは、パレーは自分のコートにはいつてから三回しかさわってはいけません。でもぼくたちは、五回さわってもいいことになりました。しかも一人連続なんかいでもさわっていいことになりました。そしてやると同じぐらいのつよさになりました。

そしたら、一人大町のミスが多くなりました。ぼくは、心の

中であ

(大町ばかりねらおう) と思い、大町をねらうと、やはりあまりこつちのコートに入らなくなつたのです。

ぼくはしめたと思ひ大町をねらうと、なんとレシーブのかつこうをしながら、かたでレシーブしたのです。びつくりしました。パレーボールは体全体つかつてもいいけど、かたはないやると思いました。びつくりしたけど、笑いがとまらなかつたです。

びつくり楽しい一日でした。

これから大町をミラクル大町と呼んでください

赤ちゃん

十八年

産みたくない

赤ちゃんなんて

産みたくない

痛いし

しんどいし

苦しいし

育てんの大変やし

そしたら弟ができた

ブニョブニョ

モトモチ

カワイイなあ

そしたらその弟が

ニコニコ笑つた

うわーカワイイ

うわー

うわー

その時思つた

はやく大人になりたいなあ

はやく赤ちゃん産みたいなあ

赤ちゃんがいない人生なんて

もつたいないわ

どうして?

十八年

どうして?

ぼくはしょうもないことでおこる

なぜだろう?

あのときもそうだ

きのうの給食のじかん

だれかにいわれて腹がたつた

そしてはしをにぎっていると おつてしまった

どうしようかと心の中で思ひながら

えんびつみたいなはしてたべた

たべにくく時間もかかり

たいへんだつた

まただ

そのあと友達と遊んでいたら

おこつてなぐろうとする悪意がめばえる

なぜだろう

なぜだろう

林先生は

カルシウムは

イライラをおさえると言つてたが

ぜんぜんおさまらない

カルシウムはせつしゅしているのに

なぜだろう

あのとときも

あのとときも

ぼくはおこつてばかり

親に反抗したり

けんかしたり

色々なことをしています

なぜこんなにおこりやすいのか

不思議だ

不思議だ

不思議だ

不思議だ

今日もまたおこつていた

あいつぬきでやろうといつてやるやつがいて

うざかつた

だからやらなかつた

うざい

なぜそう思うのか?

不思議でぼくはたまらない

なんで?

すなをになれない

そういうきもんが

たくさんある

できるだけおこりたくないが

おこつてしまう

なぜだろう

昨午市教委主催の夏休みにあつた国語教育講座に来た講師(文科省官僚)は、開口一番「新しい指導要領を読んだか?」と尋ねたそうです。そして教人しか手を挙げないのを承けて、「読んでないものは、帰れ!」と桐喝したというのです。そして、「私は、日本の教師の六割は辞めてほしいと思つている」と述べたそうです。続いて「私は生活綴方の研究をしてきたが、生活を書かせることに意味はないし、子どもを賢くすることはな

いい。」と言つたというのです。

「何とも気分の悪い研修会でした。」とその話をして下さつた

方はおつしやつていました。

生活綴方が有害だというようなことを、こういう官僚の威を

借りて主張する輩も出てきました。

私たち生活綴方の諸先輩は繰り返し繰り返し生活を見つめ書

くことが子どもを賢く優しくすると主張してこられました。私

もまたそれに続きたいと思つて仕事をしています。私の今日の

話は、そういう居丈高にデマを飛ばす連中への私の反論です。